

ご挨拶

財団法人愛媛県体育協会会長 大 亀 孝 裕

「まり投げて 見たき広場や 春の草」

これは近代俳句の改革者であり野球愛好者、正岡子規の句であります。二〇〇九年は、子規の愛した野球で日本代表がWBC二連覇を果たすなど、日本中がスポーツで大きく盛り上がりました。また、年末より子規が登場する「坂の上の雲」の放送が始まり、子規に国民の関心が集まる年となりました。子規の野球殿堂入りを記念して創設された「スポーツ俳句大賞」は、スポーツに接して得られる感動やときめき、共感を俳句に詠み込むことによりスポーツファンのより一層の増加と、スポーツと文化が融合した新しい芸術文化の創造を目指しております。

今回応募いただいた俳句は、一般の部で二千六百七十一句、ジュニアの部で一千四百七十三句、ハイブリッド（写真俳句）部門は五十四点となりました。地域的には全国二十五道府県から七百三十三句の応募があり、愛媛から全国に向けての情報発信という意味で、大きな意義を果たしているといえます。

一千七百五十六

現在、優秀句に対しては報道関係賞を贈呈いただき、有名ホテル・旅館からは宿泊券、有名菓子舗からは松山銘菓を提供していただいております。この他にも、愛媛県俳句協会をはじめ共催・協賛・後援をいただきました団体・企業等の関係の皆様方に心より厚くお礼を申し上げます。また、今回の表彰式には、このスポーツ俳句大賞の生みの親である御厩祐司様（現東京大学本部統括長・元愛媛県教育委員会保健スポーツ課長）をお迎えし、御講話を賜る機会を得たことに対しても、厚く感謝を申し上げます。

毎年のものでありますが、「えひめスポーツ俳句大賞」には、創設当初より私どもの予想を上回る応募があるだけでなく、投句されました作品はいずれも優秀であるため、審査員の先生方は、選定にご苦労されていると聞きおよんでおります。そういった中で、見事、受賞されました皆様方に心から敬意を表し、お祝い申し上げます。これを機に、全国のスポーツファンや俳句愛好者の皆様にはスポーツ俳句に関心を寄せていただき、また俳句や写真俳句愛好者の皆様には、いろいろなスポーツの現場に足を運ばれて躍動感あふれる作品をお寄せいただきたいと思います。今後の「えひめスポーツ俳句大賞」の発展を祈念して挨拶いたします。